

輝きを放つオーナーをクローズアップ

Closeup Owner



一つの枠に収まらない 幾多の顔を持つ男

俳優であり新鋭ミュージシャン。そして新しいジャンルを切り開くパーソナルトレーナーとして活躍する周防進さん。その傍らにはいつも78年型シボレー・C10がいる。そんな彼とは一体どんな人物か。

Susumu Suoh

■写真・兵衛冬樹
■取材協力：(株)ブーミング ☎03-6240-6977 <http://www.booming.co.jp>
(株)サンライズジャパン ☎03-5784-2247 <http://www.so-le.com>

一発目のエンジン始動で アメ車の魔力に掛かった

正直、第一印象は「つぎにく
いだろうな」と思った。経験
上、この手の人達は輪が立場
とか関係なく、最初から目
線ぐるぐるから、良くなメロ。チ
エケラッチョ的なフリで、チエケ
ラッチョ(て何さ)。でもね
今回の主役である周防進(スオ
ウ・ススム)さんは、そんな俺の
独りよがりの感情が、もの凄く恥
ずかしくなるくらいに低姿勢。

「忙しいのは朝早くかすいませ
ん。だって、そんなと言われ
たら、頭張るっさやないでしよ！」
さて、周防進と聞いて、「お
や」と思う人は、かなりの芸能
通。俳優としても活躍する周防さ
んは、トム・クルー主演の映画
「ラストサムライ」でトムの脇を
回る武士として活躍。さらに運
塚洋介主演の「シシホ」では、
中村錦之助演じる本平ヘッド車
団の一員として劇中盛り上げる
など、期待の若手俳優でもある。

そんな彼が愛車として選んだの
は78年型のシボレー・C10ステ
ップサイド。最初はマクナムとド
2に興味を抱き、アメ車に興味を持
ったのだが、90年代前半サバーバ
ンを見てイチコロ。その後知り合
いが、車両を紹介して、もうつり
が、ナント見せられたサバーバ
ンは72年型。

「正直これがサバーバ、って
いう感じでした。でも、一発エン
ジンを掛けて見方が変わった。ド
ロドロとして振動が強い。今ま
で乗っていた国産車とはまるで違

う生き物。まさに「エンジンに乗
る感覚」。クルマの概念がガラッ
と変わりました(笑)

そしてアメ車の魔力に掛った
周防さん、続けざまにC10を見
せられた時には、一瞬で心は決ま
っていた。

「今まで見させてもらったアメ車より
もインパクトが強くて、ハートが
ギョッと来たんです。作業着的
なイメージのトラックだけじゃ
マラス。作業着が格好良く乗れ
るトラックなんて、日本車にはな
いてしょ。」

C10の購入をさらに後押しした
のは、通常の3500から、コンプ
リートされた4ポルトメインエン
ジンに載せ替えられると聞いた
からだ。今ではミッションも3A
Tから4ATに載せ換えられ、強
烈な走りを実現するクルマに仕上
げられている。

今後の野望は、さらにもう一台
アメ車を手に入れること。そし
て、いずれはガレージを持ちたい
と語る。

「アメマに登場したガレージを
持っている人達を見ると、誰もが
憧れますよ。もし完成したら、遊
びに来てくださいね。まあ当然先
になるでしよ(笑)」

周防進、俳優として活躍中と先
に書いたけれど、周防進という人
物には、色んな顔があるのであ
る。その正体は、



CHEVROLET C10



エンジンは3500コンプリート4ポルトメインエンジンに載せ換え。スッドーンとくるパワーが自慢だ。



78年型とはいえ、音楽や映像の世界にいる人間だけに、その辺のシステムは最低限完備。バイサーモニター2基搭載。C10ダイキャストや不二子ちゃん、TOKYO TRIBE2のフィギュアなどがダッシュボードに花を添える。